

T 2 0キックオフ会合（12月4日）

山田政務官による開会挨拶（仮訳）

中尾アジア開発銀行総裁，佐々江日本国際問題研究所理事長，渡辺国際問題研究所理事長，T 2 0メンバーの皆様，ご出席の皆様，

本日は，T 2 0日本のプロセスの開始となるキックオフ会合の開催に祝意を申し述べます。また，開会にあたって日本政府を代表して挨拶する機会をいただき，大変嬉しく思います。

現在，国際社会は，政府，学术界，ビジネス等の垣根なく取り組むべき課題に直面しています。挑戦と機会に際し，日本は来年初めてのG 2 0を主催します。本日は，経済，気候変動，開発，社会学，国際政治，ITなど様々な分野で活躍される専門家の方々にお越し頂きました。G 2 0の「アイデア・バンク」としてT 2 0の皆様にはG 2 0サミットに向けて政策を提言していただきたく存じます。

経済のグローバル化が人類に大きな恵みをもたらす一方，格差拡大への懸念の声も聞かれています。さらに，世界各地で保護主義や内向き傾向が台頭しています。このような中，来年のG 2 0議長として，日本政府は，世界経済の在り方や環境問題など，国際社会が直面する課題について，議長国として議論をリードする覚悟です。来年6月のG 2 0大阪サミットでは，経済成長と格差への対処の同時達成，更にはSDGsを中心とした地球規模課題への貢献を通じて，自由で開かれた，包摂的かつ持続可能な「人間中心の未来社会」の実現を目標に掲げ，推進していきたいと考えております。

第一に，国際的な貿易及び投資は，経済成長，生産性向上，イノベーション，雇用創出及び開発のための重要なエンジンです。日本は，戦後，自由貿易の恩恵を享受し，目覚ましい経済成長を遂げました。この背景には，自由で公正なルールに基づく開かれた多角的貿易体制がありました。しかし，世界の歴史を見ると，世界経済の急速な変化に対する不安や不満が，ときに不公正な貿易慣行を含む保護主義への誘惑を生み出し，国と国との間で鋭い利害対立を生じさせてきました。

日本は，自由貿易の旗手として，自由で公正なルールに基づく開かれた貿易体制を更に推進していくため，リーダーシップを力強く発揮していきます。我が国は今月発効するTPP 11を主導し，また，日EU・EPAの署名を実現させました。また，WTOへのコミットメントはもちろん，東アジアに巨大な自由貿易圏を生むRCEP交渉の早期妥結に向け全力を注いでいきます。これらは，我が国の自由貿易に対する揺るぎないコミットメントを示す数例に過ぎません。

次にSDGsです。日本は，安倍総理大臣を本部長，全閣僚を構成員とするSDG

s 推進本部を設置し、政府が一丸となってSDGsを推進しています。来年、日本で開催されるG20やTICAD7、NYで開催されるSDGs首脳級フォローアップ会合等の機会に向けて、「人間の安全保障」の理念に基づき、特に保健、教育分野を中心に具体的な取組を強化していく考えです。

SDGsの実現には、政府のみならず、あらゆるステークホルダーが協働し、それぞれが有する知見や経験を共有することが不可欠です。日本としては、シンクタンクの方々の力も借りつつ、「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて、ともに邁進したいと考えております。

なかでも、全ての人々が、支払い可能な費用で保健医療サービスを受けられるユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の推進はSDGs達成において欠くべからざる重要な要素と考えています。これは、2030年及びその先を見据えた未来への投資です。来年9月には国連UHCハイレベル会合が開催される予定です。G20サミット、8月のTICAD7、10月のG20保健大臣会合等一連の国際会議においてUHCの重要性について議論していきたいと考えています。

更に、気候変動も大きな課題です。今年の世界的な酷暑は皆様のご記憶にも新しいと思います。日本でも酷暑や未曾有の豪雨、そして大きな台風に見舞われました。気候変動問題は国際社会が一丸となって取り組む必要のあるグローバルな課題であり、パリ協定の着実な実施が必要です。我々は迅速に強固な行動をとらなければなりません。

他方、持続可能なエネルギー源及びクリーン・エネルギー技術への投資はイノベーション、持続的な成長、および雇用創出の機会をもたらします。もはや気候変動対策はコストではなく競争力の源泉であると日本は考えています。さらに、気候変動対策はSDGs実現の重要な柱でもあります。

こうした考えに立脚しつつ、日本政府は、環境保護と経済成長の好循環を加速することに注力しながら、2020年に始まるパリ協定の本格運用開始に向け、議論を牽引していきます。

また、海洋プラスチックごみ問題も忘れてはなりません。この問題は、全ての国及び市民が、自分自身の課題として対処する必要があります。この問題に世界全体で取り組むために実効性のある対策のイニシアティブを打ち出し、日本として国際的な対策を主導したいと考えています。

最後に、世界経済の成長及び途上国の持続可能な開発を実現するためには、物理的・人的・制度的連結性を強化し、ヒト・モノ・カネの流れを活性化させることが不可欠です。他方、質の低いインフラはかえって成長や連結性強化のボトルネックとな

りかねないことから、インフラの質と量の両方を確保することが重要です。

そのため、日本は、G20大阪に向け、開放性、透明性、ライフサイクル・コストから見た経済性、財政健全性といった「質の高いインフラ」の国際スタンダードを具体的に示していきたいと考えています。

私が本日ここで取り上げた課題以外にも、経済のデジタル化、国際金融、アフリカとの協力、高齢化、移民など、国際社会が、多国間の協力の下、一丸となって解決していくべき課題は枚挙に暇がありません。また、このような課題の解決に当たっては、国家のみならず、シンクタンクや市民社会の皆様の知恵や協力が必要不可欠です。

本日ここにお集まりのT20の皆様による自由闊達で有意義な問題提起・議論を歓迎します。日本としては、様々な意見を取り入れつつ、来年のG20でリーダーシップを発揮し、国際的な課題の解決にまい進していきたいと考えています。

T20キックオフ会合の成功裏な開催を祈念し、挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

(了)